

(科目名) 総合生存学入門：人文・社会科学における京都の知・世界の知			(群)	人文・社会科学系科目群
			(系)	哲学・思想系
			(開講期)	前期
			(授業形態)	講義
			(対象回生)	全回生
			(対象学生)	全学生
(所属部局)	(職名)	(氏名)		
総合生存学館	特定教授	泉 拓良		
総合生存学館	教授	藤田正勝		
総合生存学館 (法学研究科)	教授	大石 眞		
(授業の概要・目的)				
<p>本講義では、近代日本の形成期に、人文・社会科学の分野で京都大学(京都学派)が果たした役割を学史的に明らかにし、現在現場で活躍している地域関係者の参加を得て、現代社会の抱える様々な人間と社会の問題を考える。講義と討論のなかで、国際的な視野をふまえ、京都学派の学問の継承と発展を計り、総合生存学の立場から、統合的でグローバルな京都の現代知形成の一翼を担おうとするものである。授業の形態としては、総合生存学館の経験をいかし、学生が授業での討論に参加する対話型を重んじたい。平成26年度は、哲学、法学、歴史学(考古学)の分野に限る。</p>				
(授業計画と内容)				
<p>第1回～5回 (「藤田正勝：京都学派の哲学と世界の哲学」)</p> <p>京都大学の学術的な成果を代表する「京都学派」の哲学の特徴や意義について、エピソードなどを織りまぜながら、分かりやすく解説する。とくに「京都」という町の伝統や雰囲気との関わりについて考える。さらに、「世界の哲学」という視点から見た日本の哲学の特徴や意義についても考察する。</p> <p>地域関係者として、京都学派の哲学の根底にある「無」の思想について、禅の立場から、京都市内の禅宗寺院の僧に話してもらい、それについて参加者とともにディスカッションする。</p>				
<p>第6回～10回 大石 眞：(「立憲主義と京都学派」)</p> <p>明治憲法時代に展開された「正統学派」と「立憲学派」という憲法学説の対立を前提として、後者の中でも、美濃部達吉に代表される「東京学派」に対して独自の地位を占めた佐々木惣一に代表される「京都学派」の特徴や意義について、分かりやすく解説する。この「京都学派」の独自性は、京都大学の設立趣旨それ自体に深く関わるものである。そして、「東京学派」と「京都学派」が、ともにヨーロッパの公法学、とくに独逸の国法学や国家学の吸収を通して、穂積八束を始めとする「正統学派」を凌駕するに至った過程を検討するとともに、公法学・政治学における世界的な潮流における「京都学派」の位置づけについて考察する。</p> <p>日本憲法史・比較憲法史に造詣の深い、京都大学に縁のある研究者・実務家を招いて、「京都学派」の思想やその現代的意義、「京都学派」の周辺事情などについて話してもらい、それについて受講者とともに討論する。</p>				
<p>第11回～15回 (「考古学京都学派と文化財・世界遺産」)</p> <p>人類の過去を物質から研究する分野は、日本においては明治初期のモースによる大森貝塚の発掘から始まる。東京大学理学部の人類学・先史学教室が先行するが、歴史学としての物質文化の研究は濱田耕作による京都大学文学部考古学研究室を嚆矢とする。濱田は大学博物館の設立にも関与し、その影響は戦後の文化財行政にも深く及んだ。平安時代以降の歴史的伝統を守り築かれてきた京都の文化財の一部は、世界遺産に登録されたが、観光資源化に成功したものの、一方で、これまで築いてきた市民の伝統や保存のシステムとの間に距離が生じてきている。この文化財と世界遺産の問題は京都に限られる問題ではなく、研究の蓄積をふまえ、世界的視野で解決策を考えたい。</p> <p>京都市で実際に文化財、世界遺産に係わっている担当者のお話を授業で聞き、この問題についての学生との討論を深めたい(京都市考古資料館、京都市文化観光局)。</p>				
(成績評価の方法・基準)				
平常点とレポート				
(履修要件)				
(教科書)	授業中に指示する			
(参考書)	随時必要に応じて文献/参考書を紹介する			